

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 62213895 A

(43) Date of publication of application: 19.09.87

(51) Int. Cl

C02F 1/72

C02F 1/02

C02F 1/48

(21) Application number: 61057340

(71) Applicant: MATSUOKA MITSUTOSHI

(22) Date of filing: 14.03.86

(72) Inventor: MATSUOKA MITSUTOSHI

(54) APPARATUS FOR PURIFYING AND HEATING
WASTE WATER

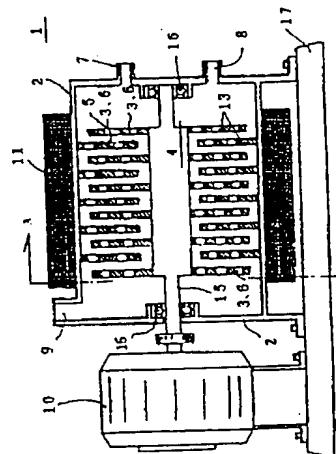
enhance the reactivity of ozone and oxygen. By this method, the contaminant is efficiently purified.

(57) Abstract:

PURPOSE: To efficiently purify a contaminant by generating heat, by a method wherein a rotor and a stator are provided in a hermetically closed casing so as to make them approach each other and a rotary driving means for rotating the rotor at a high speed is provided to one side of the casing.

CONSTITUTION: A gap of 2W5mm is provided not only between the inner surface of a casing 2 and the outer peripheral part of the perforated plate 3 of a rotor 4 but also between the inner diameter of a stator 5 and the outer diameter of a rotary shaft 15. Ozone-containing air and org. waste water are introduced into one end part of the casing 2 and the rotor 4 having the perforated plate 3 is rotated at a high speed by a motor 10. Whereupon, high speed shearing surfaces of waste water is generated in the perforation parts of the stator 5 and the perforated plate 3 of the rotor 4 to generate cavitation in waste water in large quantities. Air bubbles are formed when cavitation is generated and, by discharging the charge on the surfaces of air bubbles, the substance in each air bubbles is ionized to

COPYRIGHT: (C)1987,JPO&Japio



⑫ 公開特許公報 (A)

昭62-213895

⑤Int. Cl.

C 02 F 1/72
1/02
1/48

識別記号

府内整理番号

6816-4D

Z-8215-4D

6816-4D

⑩公開 昭和62年(1987)9月19日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

④発明の名称 廃水の浄化昇温装置

②特 願 昭61-57340

②出 願 昭61(1986)3月14日

③発明者 松岡 満壽 鳥取県西伯郡名和町大字東坪1137番地

④出願人 松岡 満壽 鳥取県西伯郡名和町大字東坪1137番地

明細書

1. 発明の名称

廃水の浄化昇温装置

2. 特許請求の範囲

1) 有底円筒形のケーシング2 内に磁化状起伏部6 を有す回転子4 と固定子5 が、両者4、5 の起伏部6 を近接状に配置して設けられており、ケーシング2 の一端側に廃水導入管7 と酸素含有ガス導入管8 が接続され、同他端部に浄化昇温液排出管9 が接続され、ケーシング2 外の一側に上記回転子4 を高速回転せしめる回転駆動手段10 が配設されている廃水の浄化昇温装置。

2) 起伏部6 が強磁性体13 であり、ケーシング2 の外周部に導線状コイル11 が多数巻かれ特許請求の範囲第1項記載の廃水の浄化昇温装置。

3) 起伏部6 が永久磁石12 によって形成された特許請求の範囲第1項記載の廃水の浄化昇温装置。

4) 回転子4 又は固定子5 のいずれか一方の起伏部6 が永久磁石12 であり、他方が強磁性体13 である特許請求の範囲第1項記載の廃水の浄化昇温装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、磁束密度の変化によって生じる誘導起電力とキャビテーションとオゾン含有空気又は空気等の酸素含有ガスを用いて廃水中の汚濁物質を酸化分解して浄化せしめ、同時に、酸化反応、キャビテーション、うず電流、摩擦により生じる熱で液温を高める装置に関するもので、この昇温した熱を回収することを目的とするものである。

この出願者は、先に誘導起電力とその熱およびキャビテーションを利用し、酸素含有ガスを用いて廃水中の汚濁物質を酸化分解する方法を提案した。(昭和54年、第009317号出願)しかしながら、この実施例における図面で、円筒状ケーシング内面および回転子の外周部に多数の永久磁石片を両者が近接した状態に固定配設されてい

るが、この装置によっては、廃水中に含まれる固体物質が回転子の高速回転による遠心力でケーシング内面の凹部を充満させて、平面状にしてしまって、キャビテーションの発生を著しく緩め、又、装置全体として反応面積が小さくならざるを得ず、処理量が少なく、処理も完全でない等の問題点があり、又、現在有機廃水の温式燃焼法である空気利用の高温高圧方式によつても、装置価格、運転費用が高くつき処理量も少ない等の問題点があり、強化反応熱を回収する手段は設けられていない。さらに、有機廃水を攪拌せしめてメタンガス等を得る方法によると、装置がばく大なものとなり、条件変化によって効率が著しく低下する等の問題点があつた。

この発明は上記問題点を解決することを目的とするものである。

これを図面に示す実施例によつて説明すると、第1図、第2図は第1実施例であり、ステンレス鋼製等の非磁性材料によつて作られた、内径150ミリメートル、長さ200ミリメートルの有孔

がケーシング2両側壁に設けられたペアリング16で支持され、さらに回転軸15の一端がケーシング2外に設けられた回転駆動手段10としてのモーター10に連結されており、ケーシング2のいずれかの一端部にオゾン含有空気又は空気等の酸素含有ガスを導入する酸素含有ガス導入管8と廃水導入管7が接続され、同他端部には、浄化昇温液排出管9が接続され、ケーシング2とモーター10は基台17に例えば水平に固定されている。

ケーシング2外の長さ方向に強力な渦が生じ、これにおいて、[△]強磁性体13である固定子5と回転子4の多孔板3が、その比透磁率の高さにより、ケーシング2内に発生する磁力を強化し、多孔板3間の磁束密度を数倍に高めており、廃水導入管7より廃水として有機廃水が逐次的に導入され、同時に、酸素含有ガス導入管8よりオゾン含有ガス導入管7によつて、モーター10によつて空気が逐次的に導入され、モーター10によつて多孔板3付回転子4が毎分1000~7200回転させられれば、粗わくは1500~3600回転させられれば、固定子5と回転子4の多孔板3の孔部および板

円筒形の密閉状ケーシング2の外周部には、鋼板に耐熱耐腐被覆が施されたコイル11が円周方向に多数回巻かれしており、線の両端は図示しない回流電線に接続されており、ケーシング2内壁には固定子5の起伏部6の例として、鉄等の強磁性体13で作られ、直径8ミリメートルの孔が面積全体の約50%開けられた厚さ4ミリメートルのドーナツ形多孔板3が、ケーブルダクト内面に一定間隔で5枚密着固定されており、この多孔板3状固定子5の各面および両面には、固定子5と同形小円状の多孔板3が起伏部6の例となしてケーシング2の長さ方向の円心に配置された非磁性体のステンレス鋼製回転軸15に固定された状態で回転子4を形成して設けられており、各固定子5と回転子4の多孔板3のすき間は1~5ミリメートル、粗わくは、回転子4の周速が概算1.5~3.0m/秒である。また、多孔板3は斜めになされており、ケーシング2内面と回転子4の多孔板3の外周部および、固定子5の内径と回転軸15の外径は2~5ミリメートルのすき間が設けられ、回転軸15の両端側

部が高周波で近づき合つたり重ね合つたりし、液中に圧縮と膨張が毎秒500~2000回繰り返えされ、同時に、固定子5と回転子4の多孔板3の孔部において液体の高速切断面が生じ、これらによって廃水中にキャビテーションが大量に発生する。このキャビテーション発生時には、負圧で液中に気泡が生じ、この気泡は、次に来る急激な圧縮段階で数百気圧の高圧とこれに伴う数百℃の高温が生じ、気泡外の比較的低温域と気泡内の高温により、気泡表面に大きな温度差が生じて電荷が生じる。この電荷は、やがて各種の蒸気を含んだ気泡内において放電され、気泡内にある物質をイオン化し、この発生したイオンはやがて液中に入り込んで各種の化学反応を引き起こし、特にオゾン、酸素の反応性を高める。さらに、このキャビテーション気泡はやがて破裂するが、その破裂時には強力な衝撃波が発生し、廃水中に含まれる微小な固体物質を超微粒化し、分子結合を切断して汚染物質を低分子化する。また、この衝撃力は同時に導入されたオゾン含有空気の気泡を分散し

、1～10ミクロン程度に微粒化し、その気泡の表面積をはく大にし、オゾンや酸素の酸化反応性を高める。またこの時、磁性体13より成る固定子5と回転子4の多孔板3の孔部と板部が高周波で近づいたり離れたりすることにより、多孔板3のすき間に磁束密度の変化が生じ誘導起電力の発生となる。この誘導起電力による電荷も上記キャビテーション気泡の液体、気体が保有する電荷を活性化させて、液体、気体が保有する電荷を活性化し、イオンの発生をより高めて酸化反応性を高め、酸化反応の強化によって汚面物質の酸化分解と同時に酸化熱で液体温度を上昇せしめる。一方、導体である回転子4の多孔板3と回転軸15がケーシング2内の長さ方向に発生している磁力線を、その回転によって直角方向に切断する誘導起電力も加わって、回転子4中にうず電流が発生して発熱する。

この熱はやがて、高速回転により熱伝導面を大きくした状態により、効率よく臨水に伝導される。また、この実験例においては、オゾンによる有機物質の酸化分解に、キャビテーションと防導起電力を加える例を示したが、その理由は、空气中

化するのに加わり、これも反応性を高める。さらには、起伏状回転子の高速回転で多くの摩擦面を生じ、摩擦による熱発生と静電気発生があり、これらも上記の各種反応に加わる。

このように、磁界を利用した誘導起電力とキャビテーション等がケーシング 2 内に多数設けた固定子 5 と回転子 4 の多孔板 3 間において連続的に発生して、オゾンを中心とした酸素含有ガスにより、廃水中の汚濁有機物質は酸化分解されながら、各多孔板 3 間を通過して排出側へ移送されながら、液温を上昇せしめ、¹⁸ 汚濁物質が完全に酸化分解された状態で淨化昇温液排出管 9 よりケーシング 2 外に出され、これが、熱交換器、ヒートパイプ、ヒートポンプ、集熱板等の熱回収装置に供給されて、他の液体、気体に熱エネルギーを転換、回収されて、冷された状態の淨化液が河川、海等に放出される。

この実施例における熱の発生状態を示せば、例えば、3相、207ボルト、7.6アンペアでの運転において、有機物質を含まない水道水を毎時660ℓ処理した場合、水温が2℃上昇する。こ

に高々ノーリー 5 % 並置しか発生できないオゾンの酸化力はフッ素に次いで強力なものであり、水への溶解性も酸素に比べて 10 倍程高く、有機物質を酸化分解する場合、最終的に水と炭酸ガスになると共に、それ自体が自然分解して有機物質が全く残らない好条件にあることで、強力な殺菌力も有している等の特徴があり、オゾンとともに、多くの割合を占める酸素にも、上記におけるキャビテーションと誘導起電力が有す強力な磁気、熱、圧力等のエネルギーを加えることにより、臨水中の汚濁物質の酸化分解と酸化熱の発生を増大ならしめるものであるが、さらに、誘導起電力の磁気力は、臨水中の有機物質特有の安定した共有結合分子の無極性を有極性に導き、水介入による水和現象を引き起こさせ、イオン化傾向を強めて反応性を高める効果もあり、また、誘導起電力の発生源である磁気によっても、有機質の反磁性に基づき、分子間の反はつ力を強めて低分子化し、同時に、そのポンピング効果で有機物質の分子、オゾン、酸素分子のエネルギー順位を高めて活性状態

の時の熱効率は、入熱が $\sqrt{3} \times 207$ ポルト $\times 7$
 $.6$ アンペア \times 力率 $0.8 = 2.18$ KW 時で 187
 0 KCAL (時間当り) であり、出熱が 660×2
 $= 1320$ KCAL (時間当り) で 70% の効率
 となるが、この装置に、^{レバ} 醋油を含む废水を毎時 3
 50 lと空気を導入して処理すれば、3相、 210
 ポルト、 8 アンペアの送風で 15.2 °C の液温上昇となる。この時の熱効率は、入熱、 $\sqrt{3} \times 210$
 $0 \times 8 \times 0.8 = 2.33$ KW 時 (2000 KCAL)
) で、出熱、 $350 \times 15.2 = 5320$ KCAL、
 すなわち、熱効率が 266% と上昇する。

しかしながら、上記実験例においては、回転子4の回転手段として高価な電力を使用してモータ-10を回転させた例を示したものであるが、回転駆動手段10として燃料費の安いディーゼルエンジンや、蒸気使用による蒸気タービンや、風車使用による空気タービン等安価な動力源の使用により、さらに高い熱効率を発生できる。また、実験例のごとく、オゾンを使用せず、空気のみを酸化剤として使用すれば、安価な処理昇温が可能となる。

熱交換器 18 に浄化昇温液 27 が接続されている

なる。等、小型安価な装置により、廃水の浄化とともに、非常に高率の高い熱発生が可能となる。

第3図、第4図、第5図は第2実施例であり、第1実施例とのちがいは、ケーシング 2 内に配置されている多孔板 3 より廃水導入側に、次第内側から 5 ミリメートルのすき間を置いていた 3 枚の多孔板 3 が回転軸 15 に固定された状態で回転子 4 を形成しており、さらに、これら 3 より 10 ミリメートルの間を置いて、ドーナツ形の全平板状をなした邪魔板 19 が、ケーシング 2 内面に密着固定された状態に設けられ、邪魔板 19 の導入側ケーシング 2 に高比重物排出管 20 が接続され、邪魔板 19 と排出側に設けられた第1実施例のごとくの回転子 4 端部の多孔板 3 も 10 ミリメートルの間を置いていた状態で配置され、6 枚の回転子 4 多孔板 3 と 5 枚の固定子 5 多孔板 3 が配置されて、ケーシング 2 の排出側端部に浄化昇温液排出管 9 の代りに、一次浄化昇温液排出管 21 が接続され、これ 21 が浮上分離槽 23 に接続され、浮上分離槽 23 の底部に接続された浄化昇温液排出管 9 が、熱回収装置 18 としての熱交換器に接続され、

完全に酸化分解および除去された状態の浄化昇温液が、浄化昇温液排出管 9 より、第1実施例のごとく熱回収装置 18 に送られる。しかしながら、この実施例で使用した高比重物質の遠心分離とその回収および浮上分離の装置は、廃水の種類によっては両者の必要性がない場合もあり、いずれか一方を省略してもかまわない。また、浄化処理がなされた結果においても、さらに処理物質が残る場合、空気ばつ氣等による生物的酸化法との併用において、より完全な浄化処理がなされる。また、この実施例では、廃水導入管 7 の途中に酸素含有ガス導入管 8 を接続し、気体と液体が混合された状態でケーシング 2 内に導入する例を示した。

第6図、第7図は第3実施例であり、廃水の浄化昇温装置 1 において、磁界およびキャビテーションの発生手段として、回転子 4、固定子 5 の起伏部 6 が、多数の小型永久磁石 12 を硬質樹脂等の非磁性体 14 により、全体としてドーナツ形の円盤状に形成したもので、回転子 4 と固定子 5 の

この実施例においては、特に、廃水中に難処理状の固体物質を含んだ場合の処理方法であり、酸素含有ガスとしての空気と廃水がケーシング 2 内に導入されれば、~~多孔板 3 付回転子 4 の高速回転~~
~~3枚の多孔板 3 によ~~で、廃水中の高比重物質は外方に遠心分離されるながら、邪魔板 19 前に設けた高比重物排出管 20 に集められ、ケーシング 2 外に排出された後、乾燥、焼却され、比較的比重の低い廃水や空気は邪魔板 19 の中心の孔を経由して、その後第1実施例のごとく酸化分解処理と昇温がなされるが、処理がなされた結果において、比重の低い難処理物質が含まれている場合には、その固体物に酸化分解処理用の酸化剤として使用した空気の超微粒状気泡が沢山付着して、固体物の比重が軽くなされた状態になっており、この状態に一次処理された昇温廃水は一次浄化昇温液排出管 21 より浮上分離槽 23 に送られ、低比重固体として上部に浮上分離され、これも乾燥、焼却され、汚泥物質が

永久磁石 12 は各々が数ミリメートルの間隔を置いて配置されるとともに、回転子 4 と固定子 5 の永久磁石 12 のすき間が 1.5 ~ 3.0 ミリメートルあり、非磁性体 14 より永久磁石 12 の表面が 1 ~ 2 ミリメートル突出している。

これによれば、回転子 4 の高速回転で起伏部 6 の凹凸が互いに近づいたり離れたりして、前実施例のごとくキャビテーションと磁束密度の変化に伴う誘導起電力が発生し、廃水の浄化昇温処理がなされるが、前実施例のごとく磁石を使用しないため、その分電力が必要なくなる。

第8図、第9図は第4実施例であり、第3実施例とのちがいは、固定子 5 は第3実施例と同じであるが、回転子 4 を第1実施例と同じくし、固定子 5 の永久磁石 12 と回転子 4 の多孔板 3 のすき間を 1.5 ~ 3.0 ミリメートルとして、固定子 5 の永久磁石 12 により回転子 4 の多孔板 3 を磁化させ、両者 4、5 の起伏部 6 の近づき合い、離れ合いによってキャビテーションと誘導起電力を発生させるものであり、電力を使用することなく元

なお、上記実施例においては、露水として、有機露水を使用したが、これは限定的でなく、無機性汚染物とみなされる銅／鉄塩、亜硝酸塩、硫化物において、例えば銅／鉄イオンを第2鉄イオンの状態まで酸化し、これを水酸化物または塩基性塩としてビデン除去することもできる等であり、酸素含有ガスとして、実施例のことくオゾン含有空気、空気を用いず、酸素ガスによって良い事は当然で、他の酸化剤として酸化力が特に強力なフッ素を用いることにより酸化分解が可能となる物質もあるし、塩素を用いて酸化分解してもかまわす、装置1への導入方法も、気体、液体共連続的に導入することなく、液体を停止状態にして酸素含有ガスのみを連続的に導入して廻水中の汚染物質を完全に酸化分解し昇温せしめた後に新しい露水と入れ替える方法でもかまわず^{第5実施例として}図10図、第11図に示したことく、回転子4および固定子5の起伏部6を各々1枚のドーナツ形永久磁石12として第1実施例のことくに配置し、起伏部6を使用電力を少なくて多孔板3状にすることによっても^{上記実施例の}

の D-D 線にそろ断面図、第 10 図は第 5 実施例の絶縁面図、第 11 図は第 10 の E-E 線にそろ断面図、第 12 図は第 6 実施例の断面図、第 13 図は第 12 図の F-F 線にそろ断面図、第 14 図、第 15 図、第 16 図は第 12 図の G-G 線にそろ断面図である。

1 … 隔水の淨化昇温装置、 2 … ケーシング、
 3 … 多孔板、 4 … 回転子、 5 … 固定子、 6
 … 起伏部、 7 … 隔水導入管、 8 … 酸素含有ガ
 ス導入管、 9 … 淨化昇温液排出管、 10 … 回
 転運動手段、 11 … コイル、 12 … 永久磁石
 、 13 … 強磁性体、 14 … 非磁性体、 15
 … 回転軸、 16 … ベアリング、 17 … 基台、
 18 … 熱回収装置（熱交換器）、 19 … 邪魔
 板、 20 … 高比重液排出管、 21 … 一次淨化
 升温液排出管、 22 … 仕切板、 23 … 浮上分
 繩槽、 24 … パルプ、 25 … 熱交換器の低温
 倒氣液導入管、 26 … 断熱材、 27 … 低温淨
 化液排出管。

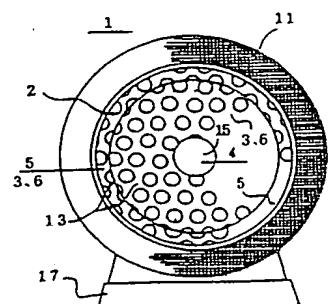
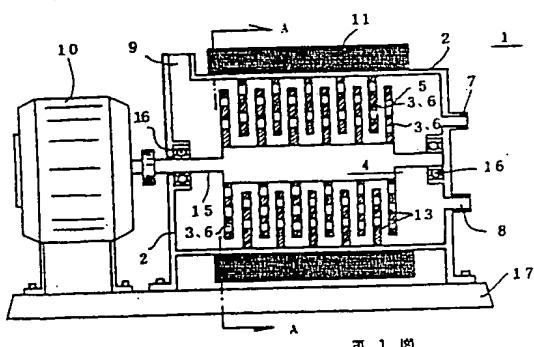
以 上

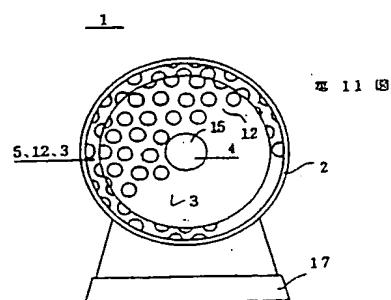
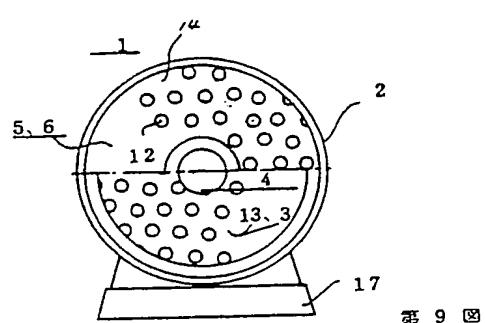
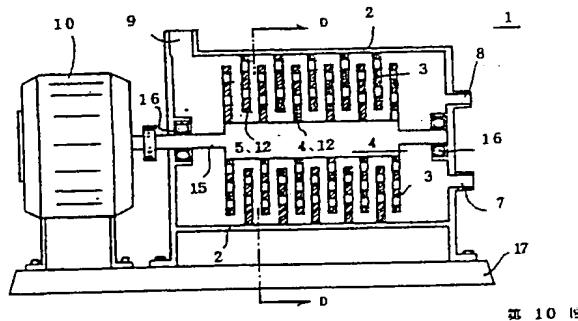
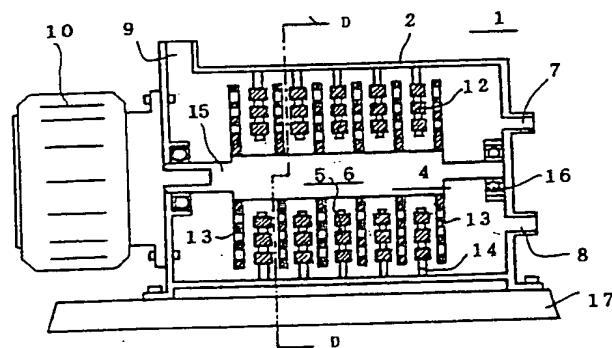
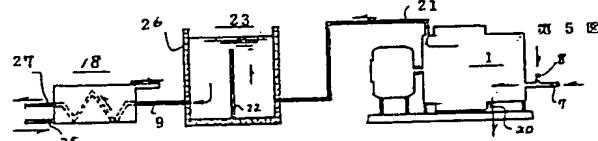
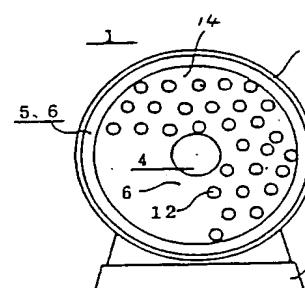
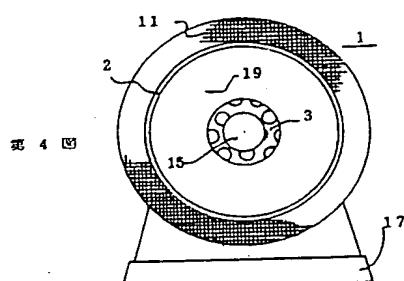
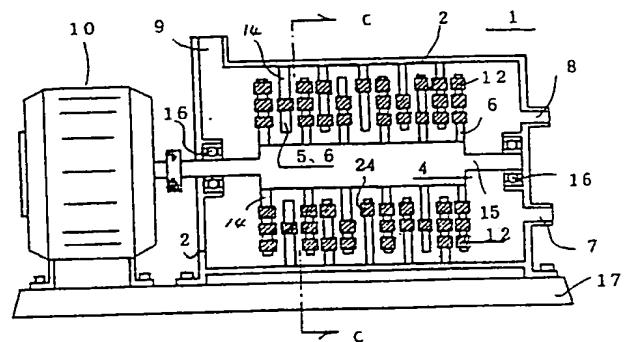
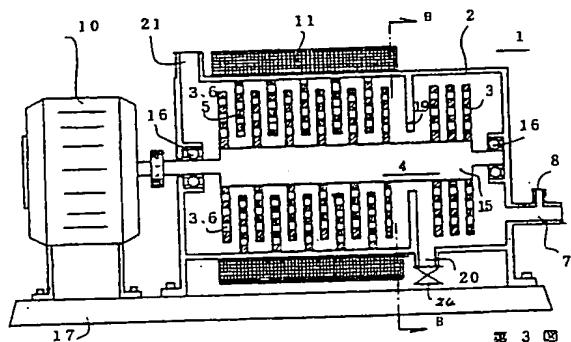
特許出願人 松岡清研

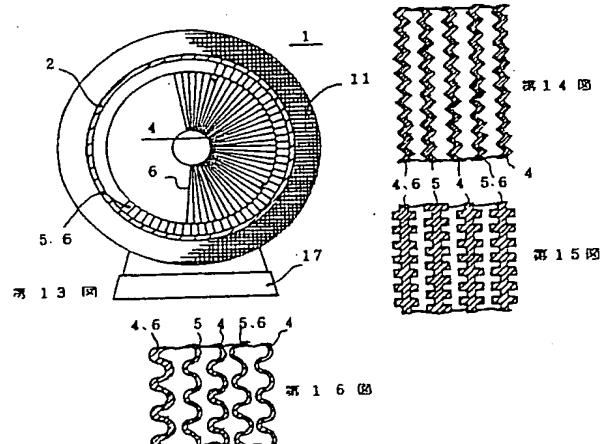
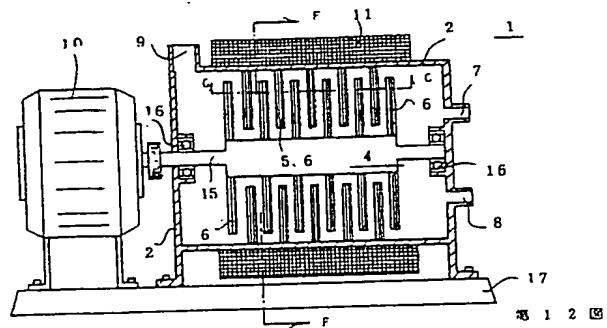
ことく効果があり、また、第6実施例として図12図、図13図、図14図、図15図、図16図に示したことく、図1実施例において使用した起伏部6を多孔板3とせず、回転子4および固定子5の起伏部6を全面的に放射状をなした山形梁、歯形梁、波形状にすることによっても、凸起伏が高周期で近づき、離れ合い、液体中に圧縮、膨張が生じてキャビテーションの発生となり、同時に磁束密度の変化で誘導起電力の発生となって第1実施例のことく効果を生じる。また、この実施例において使用した山形梁、歯形梁、波形状をそれぞれ凸起伏状になしても同じ効果を生じる。上記実施例における起伏部6としての多孔板3の内部構造を示すと、これが形状は限局的ではなく、網状またはひだのようである。

4. 図面の附图を説明

図面はこの発明の実施例を示すもので、第1図は第1実施例における縱断面図、第2図は第1図のA-A線にそろ断面図、第3図は第2実施例の縱断面図、第4図は第3図のB-B線にそろ断面図、第5図は工程図、第6図は第3実施例の縱断面図、第7図は第6図のC-C線にそろ断面図、第8図は第4実施例の縱断面図、第9図は第8







**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.